

令和三年度別府市小・中学生「人権作文」入賞作品

佳作

障がいがある人への差別はやめよう

別府市立大平山小学校五年 小柳 和海

障がいがある人に傷つくことを言うのはやめよう。障がいがある人の気持ちを考えることが大切です。自分が言いたいように言えなかったり、動きたいように動けなかったりしたらどのくらいつらいだろうか考えよう。自分がされて嫌なことは絶対に人にしてはいけません。

差別のなかにいじめはふくまれます。私の前のクラスでもいじめがありました。見た目やしぐさなどがその対象でした。耳が聞こえない人に、聞こえないからと言って、悪口を言ったりするのはとてもひどいじめです。

私は以前、障がいがある人がいじめられたというテレビ番組を見ました。転校してきたその子は、「私は耳が聞こえないです。」

と言い、ノートで会話をしていました。しかしある日、クラスの友達からいじめにあうのです。クラスの一人の子が補聴器を耳から取り上げ、外に投げたりすることが続いたそうです。このようなことが続き、その子はまた転校してしまいました。転校していった後もそのクラスではいじめが何度も繰り返されたそうです。

私はこの番組を見て、見た目やしぐさなどをからかったりするのはやはりよくないと思いました。見た目やしぐさが異なるのは当然だと思いません。世の中に全く同じ人などいません。見た目などの違いは個性だと私は思います。

私には大好きな妹がおり、ダウン症という障がいがあります。ダ

ウン症には、心臓や呼吸器が弱かったり、読み書きが苦手だったり、言葉
を発することが苦手な人などがいます。そんな妹に私は、失礼な態度
や言葉を言ったことがあります。なかでも深く反省していることは、妹
が私の野球を見に来たとき、

「恥ずかしい。」

と言ってしまったことです。それから一か月が経ち、「大好きな妹にた
いして悲しむことを言ってしまった。」と思い返しました。私が言っ
てしまった言葉で妹の心は傷ついたと思います。今でも妹とはけんか
もするけど、これからは妹を傷つけずお姉さんとして守っていきたく
と思っています。妹は私にとってとても大切な存在だといつも思っ
ています。

障がいがある人もない人も、年れいも、国せきも関係なく、だれもが
たった一つの「同じ命」を持っています。これはかけがえのないもので
す。これから私は、困っていきそうな人に、自分にできるかぎりのこと
をしていきたいと思っています。

まだまだ世の中の人のなかには差別をする人がいます。私たちが大人
になってもこのままではいけないと思うことも多くあります。今はまだ
小学五年生の私です。できることは限られますが、周りの人が差別やい
じめをしていたら、正しいことではないとしっかり伝えていきます。